

<p>伝道弟子初代教会の伝道弟子 霊的前方(最前線)</p> <p>* 序論 伝道弟子の優先順位 ①力 ②御座 ③現場</p> <p>(1)使徒 2:1.力-ところで、私たちがまず最初にしなければならないことは、神様がくださる祈りの力を常に持っていなければならない。</p> <p>(2)御座の門-祈りの力から得れば、神様が必ず御座の門を開けられるようになる。</p> <p>(3)現場-神様が行われ部分を現場で確認するようになる。</p> <p>▲この順序だけ変えてしまえば、正しく用いられるようになる。この部分を悟るのが最高の恵みの中の恵みだ。この部分になったとき、初代教会の弟子に最も至急な霊的現場が見えるようになる。</p> <p>1. 霊的現場-前方(最前線)</p> <p>▲前方という単語を使ったのは、とても至急な、戦争と同じ現場ということだ。この祝福の中で祈っていれば-</p> <p>(1)使徒 1:3. 神の国-一人でこの祝福を味わいなさい。</p> <p>1)使徒 1:14-神様がともにおられる人を付けて</p> <p>2)使徒 2:42. どの教会であっても、この国を味わうようにして</p> <p>3)使徒 2:46-47. 毎日味わうようになる。</p> <p>(2)使徒 11:19. 更新を言う。</p> <p>1)開拓地教会-空いている大学に開拓地教会が必要だ。ここに意図的にキャンプをしなければならぬ。</p> <p>2)青年人材-今、青年人材を立て起こしなさい。</p> <p>3)専門家-専門家を立てなさい。</p> <p>4)連携型地教会-重職者が連携型地教会をするようにさせてあげなさい。</p> <p>(3)使徒 13:1. 世界宣教-こまごまを見たのがキャンプだ。</p> <p>1)弟子-現場を見れば弟子が見える。毎日のように連結するようになっている。</p> <p>2)重職者(地教会)-こうすれば、必ずそこにいる重職者に答えが臨むようになっていく。それを地教会と言う。</p> <p>3)レムナント人材(キャンプ)-それではそこに必ずレムナント人材が出るようになっている。レムナント人材中心にキャンプが起きなければならない(使徒 18:4)</p> <p>▲この部分を置いてすることをキャンプと言う。</p> <p>▲この時からどんなことが出てくるのか。</p> <p>2. まず霊的な祝福をくださる。</p> <p>(1)使徒 2:1-4. 風のような、炎のような力で働かれた。</p> <p>(2)使徒 3:1-6. 神殿の美しい門でキリストのみわざが現れた。</p> <p>(3)使徒 4:29-31. ベテロが法廷に立つた後、教会の中に聖霊に満たされる働きが起きた。</p> <p>(4)使徒 7:54-60. 死がきても大丈夫だ。</p> <p>(5)使徒 8:4-8. それまでユダヤ人がまったくできなかった働きをした。使徒 8:26,29</p> <p>3. くるしかない答えを与えられた。</p> <p>(1)使徒 2:9-11. 門が開かれたが、重職者にはまず最初に福音と共に産業の門を開かれた(15ヶ国)</p> <p>(2)使徒 2:41. 会館の中に入れば 3 千弟子が起きる。今、条件がその時の条件よりはるかに良い。</p> <p>(3)使徒 6:7. 力がないのに重職者を立てたら、エルサレム全域で祭司が悔い改めるほど働きが起きた。</p> <p>▲使徒 9:1-43.10 章-重職者中心に答え現場がぱっと広がった。</p> <p>(4)使徒 18:1-4. 神様がプリスカ、アクラの事業にどんどん注ぎ込まれた。くるしかない</p> <p>(5)使徒 18:1-4. 神様が人を付けるしかない。ガイオ、財務官エラスト、クワルト、神様が付けられたのだ。成り立つしかない。</p> <p>▲初代教会の霊的前方に立って神様の働きを成し遂げる人には、こういう答えをくださるほかはない。</p> <p>* 結論-使徒 1:14. 霊的前方を見つけなさい。</p> <p>(1)教会の中を先に振り返って、力を与えて確立させてあげなさい。</p> <p>(2)そうすれば、外側にはどのようにするか-13ヶ所の霊的前方を見た。</p> <p>▲重職者がこの目は開いて行かなければならぬ。いったいマルコの屋上の間から始まって、何をして行ったのか、神様がアンテオケ教会でしたのが何か分らなければならぬ。宣教が何か知って行かなければならぬ。最も貴重な祝福のがしてはいけない。</p>	<p>70人:70人重職者-エリート</p> <p>* 序論-優先順位(階段の時)</p> <p>(1)ともに-聖霊とともににおられる。</p> <p>▲この恵みから受けて、これの中から出てくることをしなければならぬ。</p> <p>1)みことば-そして、神様がみことばをくださる時は、答えられるためにくださる。説教というのは、その時間に神様がその人に最も望んでおられるみことばをくださるために与えられるものだ。</p> <p>2)祈りも-神様がその人に最も望まれることを置いて祈るのだ。</p> <p>▲それなら、みことばを受ける時ごとに、祈る時ごとに、必ず聖霊が働かれると言われた。祈りの中の祈り、答えの中の答えは、普段の時に私が味わうことだ。</p> <p>(2)御座-黙示 8:3-5</p> <p>▲私たちが神様が願われるみことば、望まれるみこころを握って祈っていれば、必ずこのことは(御座、黙示 8:3-5)起きる。</p> <p>(3)現場(準備)</p> <p>▲そうすれば、必ず現場に準備ができていく。見つけさえすればよい。</p> <p>▲それでは、70 人の重職者が伝道した最も大きいことが何か分かるのか。パウロが伝道をしに入って、第一に見たのがエリートだ。入ってみればエリートがはるかに霊的に問題があって、福祉対象だ。</p> <p>▲多くの重職者が文化を活用してみる必要がある。芸能のようなことや、スポーツ、絵、音楽、医療、書道、多くの趣味生活活動の部分に入り込んだ。パウロはいつもエリート側に入って行った。</p> <p>1. 霊的問題が深刻だ。</p> <p>(1)エゼキエル 28:14. 音楽、芸能の側にいる人は、霊的問題に陥るしかない。</p> <p>(2)成功の後に来る霊的問題をほとんど知らずにいる。</p> <p>(3)財物の後に来る相当な霊的問題がある。</p> <p>(4)文化の後に来る霊的問題は深刻だ。</p> <p>▲パウロがこれを知って、とても正確に攻略をしたのだ。</p> <p>2. マルコの屋上の間を見なさい。</p> <p>(1)使徒 2:9-11. 現場から門を開けたのではなく、15ヶ国から開いたのだ。簡単に話せばエリートだ。こちらに入っていくのが鍵だ。すると、使徒 2:41 節に 3 千弟子がさっと起きた。</p> <p>(2)使徒 6:1-7. 重職者何人かを選んだが、どれだけが働きが起きたかとすれば、祭司がみことばを受けて悔い改めた。</p> <p>(3)使徒 9:1-43. すべての重職者が地域地域ごとに文化をすべて握った内容だ。人々が死んでいっているから、正確な福音だけが与えられ生き返る。</p> <p>3. パウロ-パウロを見なさい。いくつかの特徴がある。</p> <p>(1)使徒 13 章、16 章、19 章-パウロが初めて宣教に出て行った現場、マケドニア、ローマに行く直前に、ツラノでみことば運動、伝道運動をした現場だ。この共通点が指導者に入って行った。パウロは田舎よりは大都市に入って行った。そして、霊的問題を持った者に答えをみな上げた。</p> <p>(2)マケドニアの現場に入った場所ごとにエリートを握った。</p> <p>(3)ローマ 16 章の人物を見なさい。こういう重要なエリートを握ったのだ。</p> <p>▲これが重職者が現場で伝道運動をまず最初に受ける答えだ。</p> <p>* 結論</p> <p>(1)使徒 1:14 節は、初代教会が集まる時間だ。ここにローマから来た旅人と多くの重職者、産業人が恵みを受けたのだ。最高の答えである聖飲みたしの働きを体験するようになったのだ(使徒 2:9-11)。</p> <p>(2)使徒 18:14-28. プリスカがアポロを見て話した話だ。マルコの屋上の間で起きた聖霊の働き、その現場を分るのか。</p> <p>(3)使徒 19:1-7 節の働きを分るのか。</p> <p>▲重職者、70 人 要員はひとつの目だけあれば良い。すべての地帯に神様の福音運動のために人を生かす弟子を備えておかれた。これを見つかるのだ。</p>	<p>ミッションホーム: いやし専門の働き-神様の視線が留まる所(システム)</p> <p>* 序論-祈りの内容、方法、力</p> <p>▲ミッションホームでこれをしないならば、ミッションホームの価値がない。</p> <p>(1)内容-聖霊の満たし、5つの力、4万、40万、1千万</p> <p>(2)方法-定刻、現場(常時)、みことば(答えになるように)</p> <p>(3)力-私がそでいつとも答えを得なければならぬ。根拠がない答えではなく、神様のみことばが答えなのに、だれが見ても正しいという答えが見える。そして、私に霊肉ともに健康を得る時間だ。</p> <p>▲私たちが弟子に、これ一つを教えられないではいけない。他のことをせずに、これからしなさい。聖書はどうなっているか。</p> <p>1. 聖書は完ぺきになっている。</p> <p>(1)使徒 1:3. 集中-集中訓練する時は、完全に祈るようにさせなければならない。</p> <p>(2)使徒 1:14. 現場の集い-集中して恵みを受けるのを持って、その契約を持って現場の集いを始めたのだ。</p> <p>(3)使徒 2:1. 体験-五旬節の日になって...とても重要な体験をするようになったのだ。</p> <p>(4)使徒 2:42. 持続-これがそのまま終わったのではなく、持続するのだ。講壇のみことばだけで充分だ。これが本物だ。</p> <p>(5)使徒 2:46-47. 現場の答え-これを見て現場に行き答えを味わうのだ。</p> <p>2. 実際のマニュアルがあった。</p> <p>(1)使徒 2:9-10. ローマから来た旅人、何かに力を受けたのだ。</p> <p>(2)使徒 4:29-30. そうするから、その迫害がきたが全く恐れなかった。</p> <p>(3)使徒 13:1-4. パウロが聖霊の導きを受けるために断食して食べた。</p> <p>(4)使徒 14:24-28. あなたがたが信じたときに、聖霊を受けたのか。</p> <p>(5)使徒 19:1-7. 信じたときに、聖霊を受けたのか。</p> <p>(6)1 コリント 12:1-13:13. 賜物論を話すのではない。初代教会は何かか他のものが必要ないという答えが出てきた。神様がくださる力の良いという答えが出てきた。</p> <p>(7)II コリント 12:1-10. パウロが自分の問題を置いて深く祈っている実際の自分の姿を説明した。私たちのレムナントが、神様の前で集中する祈り 10 分だけあるならば、勝利することができる。</p> <p>3. ある日神様の重要な時刻表がくる。</p> <p>▲私が神様の前に答えを受ければ決断する時刻表がくる。</p> <p>(1)福音に満たされるならば終わりなのに、これが何か。この話を深くする。</p> <p>(2)聖霊に満たされるべきなのに、どう思うのか-10 分集中</p> <p>(3)伝道の満たし-証人を言う。</p> <p>▲福音の満たしを徹底的に話してみれば、私の性格、体質が問題だ。聖霊の満たしを継続してみれば、この答えが出てくる。あなたが今、神様に向かって、たった 10 分も集中もできないのに生きているのが奇跡だ。あなたが本当に伝道が起きているのか。あなたの人生が伝道の中にあるのか。あなたの産業が伝道の祝福の中にあるのかを尋ねる。結局は、私は伝道する人ではなく証人だ。</p> <p>▲それで、この祝福をあなたが深めてこそ見つけるのだ。これが最も重要ないやし、最も重要なのだ。</p> <p>* 結論-弟子</p> <p>(1)時刻表-神様の時刻表はどこにあるのか</p> <p>(2)道るべ-神様の道るべはどこにあるのか</p> <p>(3)目標-神様の目標はどこにあるのか</p> <p>▲この 3 つ見るしは、この言葉を(前の内容)がわかって動く弟子の中にある。この弟子を正しく見つける者に、この答えもくださるだろう。それで、あなたがたは行ってすべての国の人々を弟子としなさい。</p> <p>▲すべての信徒に行き教えなさい。キリストが唯一の救い主であることが確実ならば、この答えを(序論)探し出しなさい。この祈りがとても幸せならば生かされる。この祈りを教えてこそ、信徒が生かされる。</p>
--	--	--